

二つの ミンゾク学

第4回 国際常民文化研究機構国際シンポジウム

Minzokugakus: Two Ways to Promote Multicultural Understanding

—多文化共生のための人類文化研究—

2012. 12/8 (土) — 12/9 (日)

会場：神奈川大学 横浜キャンパス 16号館 (東急東横線白楽駅下車 徒歩13分)

参加無料 / 事前申込不要

I部 国際シンポジウム 12月8日(土) 10:30—17:30

民族の交錯 —多文化社会に生きる—

会場：神奈川大学 16号館セレストホール

II部 公開研究会 12月9日(日) 10:00—17:30

ミンゾク研究の光と影

—近代日本の異文化体験と学知—

会場：神奈川大学 16号館視聴覚ホールB



問合せ先 / 国際常民文化研究機構・神奈川大学日本常民文化研究所 〒221-8686 神奈川県横浜市神奈川区六角橋 3-27-1
TEL: 045-481-5661(代) FAX: 045-481-3155 Email: office-folk@kanagawa-u.ac.jp <http://icfcs.kanagawa-u.ac.jp/>

主催：国際常民文化研究機構・神奈川大学日本常民文化研究所

後援：日本学術会議 / 日本文化人類学会 日本民俗学会 日本民具学会 地方史研究協議会 日本教育学会 日本言語学会 日本宗教学会 日本人類学会
公益財団法人渋沢栄一記念財団 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 国立民族学博物館 国立歴史民俗博物館 独立行政法人国際協力機構

二つのミンゾク学 —多文化共生のための人類文化研究—

Minzokugakus: Two Ways to Promote Multicultural Understanding

新国学ともいわれる一国民俗学を確立した柳田国男は、その先に、国境を越えて人々が生活文化の相互理解をめざす世界民俗学を構想していた。今日までに、発達した IT 技術によって生活情報が瞬時に遠隔地へと伝達されるようになり、また、大容量メディアの普及によって非文字記録の効率的な利用が実現されている。世界民俗学の構築はもはや単なる夢物語ではない。

まずは、各々の民俗研究者が自文化を軸足にして、それと連続性をもつ諸文化へと比較をすすめて、その知見を持ち寄って互いの異同を知ることだ。死角となった自分の背中のは、隣人の目を借りねば見られない。同様に、比較研究なくして自己の全体像を知ることはできないはずである。

一般に民俗文化は個性が強いが、今日的視角から総合的に検討することによって、人類に共通する生活の知恵が浮かび上がるだろう。ここで自文化から出発した比較研究は、むしろ直接的な連関のない民族文化の比較から人類の普遍性を追求してきた文化人類学と合流することになる。

現代社会は未だ飢餓や貧困から自由ではない。多くの場合、直接の原因は紛争や戦争であり、さらにその遠因は迫害や差別にある。このような人類全体の不幸を克服するために必要なのは、人々がそれぞれの等身大の生活を相互に知り、認め合うことであろう。日常生活のレベルで、自文化と異文化、個性と普遍性を相対化する二つのミンゾク学の視角が今こそ求められているのではないだろうか。

国際シンポジウム 12月8日(土) 10:30—17:30

「民族の交錯 —多文化社会に生きる—」

開会挨拶 中島 三千男 (神奈川大学学長)
趣旨説明 佐野 賢治 (機構運営委員長・日本常民文化研究所長)

基調講演 11:00—12:00

「多文化社会としての日本とその背景」
ハルミ・ベフ (スタンフォード大学 名誉教授)

パネル報告 13:00—16:15

「沖縄文化の柔軟性 —南米移民の社会学—」
森 幸一 (サンパウロ大学 教授・同大学日本文化研究所 所長)

「アイヌ語の新しい担い手たち」
中川 裕 (千葉大学 教授)

「はざまに生きる人々 —国籍、民族への問い—」
陳 天璽 (国立民族学博物館 准教授)

「同化と差別、そして多文化共生 —在日の視点から—」
尹 健次 (神奈川大学 教授)

「在日ムスリム家族の子育て —日本人女性とパキスタン人男性の国際結婚の事例から—」
工藤 正子 (京都女子大学 准教授)

「多文化共生をめざす教育実践の創造と博物館」
森茂 岳雄 (中央大学 教授)

総合討論 16:30—17:30

進行および総括：渡邊 欣雄 (機構運営委員・國學院大学 教授)
小熊 誠 (機構運営委員・日本常民文化研究所員)

※各講演のタイトルは、予告なく変更になる場合がございますのであらかじめご了承ください。

公開研究会 12月9日(日) 10:00—17:30

「ミンゾク研究の光と影 —近代日本の異文化体験と学知—」

開会挨拶 小熊 誠 (機構運営委員・日本常民文化研究所員)
発題・進行 泉水 英計 (機構運営委員・日本常民文化研究所員)

研究発表 10:10—15:50

「『大東亜共栄圏』の民族学 —民族の戦争利用—」
中生 勝美 (桜美林大学 教授)

「民族学の学術動員 —平野義太郎の戦時プロジェクト—」
清水 昭俊 (国立民族学博物館 名誉教授)

「泉靖一のニューギニア調査と軍属人類学 —大東亜戦争と学問—」
全 京秀 (国立ソウル大学校 教授)

「民研本転々録 —国立民族研究所蔵書の戦中と戦後—」
菊地 暁 (京都大学人文科学研究所 助教)

「『アイヌ民族総合調査』と戦後のミンゾク学/アイヌ研究」
木名瀬 高嗣 (東京理科大学 講師)

「米国人による戦後日本調査とその展開」
谷口 陽子 (専修大学 講師)

「中国は柳田国男にとってどんな意味があったのか」
王 京 (北京大学 講師)

コメント 16:00—17:10

コメンテーター：坂野 徹 (日本大学 教授)
重信 幸彦 (国立歴史民俗博物館 客員教授)
金 広植 (東京学芸大学 研究員)
三浦 啓二 (元外務省)

閉会挨拶 佐野 賢治 (機構運営委員長・日本常民文化研究所長)

お問い合わせ先

国際常民文化研究機構
神奈川大学日本常民文化研究所
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋 3-27-1
Tel: 045-481-5661 (代) Fax: 045-481-3155
Email: office-folk@kanagawa-u.ac.jp
http://icfcs.kanagawa-u.ac.jp/

- 東急東横線「白楽駅」下車 徒歩 13 分
 - 横浜駅西口バスターミナルから横浜市営バスを利用 (東神奈川駅西口経由 約 15 分)
 - 【1 番乗場 36 系統】菅田町 / 緑車庫行「神奈川大学入口」下車
 - 【1 番乗場 82 系統】八反橋 / 神大寺入口行「神奈川大学入口」下車
 - 横浜市営地下鉄片倉町駅より横浜市営バス利用
 - 【2 番乗場 36・82 系統】東神奈川駅西口 / 横浜駅西口行「神奈川大学入口」下車
- ※駐車場がありませんので、自家用車の利用はご遠慮ください。

